

部活やスポーツをとおして何を学ぶのか？

生徒のみなさんの中に「部活って何のためにするんだろう？」「高校へ行ったら部活はどうしよう？」と考えたことのある人、考えている人はいませんか？

毎年、5月頃のテレビや新聞で「新入社員の現状」についての特集が取り上げられます。今年の新入社員は、挨拶ができない、礼儀を知らない、遅刻・休みが多い、仕事への情熱が感じられない、というような先輩や上司のコメントを目にします。

そんな冷たい風当たりを前に「面白い」と感じる新入社員の中には入社して間もない会社をちょっとしたことで辞めてしまう人も少なくありません。

また、お隣りの韓国では、親と話をする時は「敬語」を使うのが一般的だそうです。現在の日本では、両親に対して「敬語を使う」という家庭はほとんどないと思います。学校では、「時と場に応じたけじめのある言葉遣い」を基本に指導していますが、時には、担任の先生と友だち感覚で話す生徒も珍しくはありません。

つまり、敬語を使う場がなければ、「敬語が使えない人間」になるのは当然のことです。部活動の中では、先輩に対する「タメ口」は許されないのが普通です。今の都留二中ではそんなに厳しい先輩後輩の関係はありませんが……。「礼儀」や「敬語」について、親や学校の先生よりはるかに厳しいのが部活の先輩です。そんな意味で生徒たちが、社会で必要な礼儀をきちんと学べる場として「部活」は有効となると思います。



山梨県ラグビー選手権大会の様子

〈部活で学ぶ 協調性〉

日常生活の中で、生徒たちは自分の好きな人とだけ、話をしたり遊んだりしています。学校では、嫌いなクラスメイトと無理して話をすることはないでしょう。塾でもそれは同じです。自宅に帰れば、そこにいるのは家族だけです。もちろん、友だちや家族とケンカすることもあります。そんな時は「目を合わさない、話をしない、メールを送らない。」なんてことが起こってしまいます。つまり「自分に都合の良い人とだけ話をする」という生活を送っているのかもしれませんが、しかし、部活動ではそれができません。相性の合わない人がいても、嫌いな先輩がいても、同じ部にいる以上、話をし、一緒に活動をしなければなりません。

〈部活で学ぶ 達成感〉

運動部だけかも知れませんが、部活によっては1年生はボールに触れる時間が少なく、毎日走りこみ、基礎練習が多く、「球拾い」や「グラウンド整備」のような裏方作業も結構あるかもしれません。試合に出るのは先輩が優先されることがあります。しかし、試合に向けて努力する先輩の姿を見ることも、仲間と地味な練習や裏方作業を積み重ねることも、必ずその人の財産になることは間違いありません。苦勞し、努力した時間があれば、あるほど、レギュラーに選ばれたり、試合に勝ったりした時に「達成感や満足感」を味わい、それがその人の「自信」となり、人に対する優しさにつながっていくはずです。



3年体育「持久走」 きつい！

「富士山の頂上に立つには、長い裾野を歩かなければならないのです！」

こんなことを教えてくれるのも部活動のメリットであると思います。部活動の節目として、こんなことを考えてみてはどうでしょうか。

来年度に向けて動き出した生徒会

良きリーダーとは「希望を配る人である！」

11/16(木)に平成30年度の都留第二中学校生徒会役員選挙の立会演説会と投票・開票を行いました。各立候補者のマニフェスト(選挙公約)には、都留二中の現状分析と候補者が描く都留二中に近づくための方策がしっかりと書かれており、立会演説会ではその思いや考えを、全校にしっかりと伝えることができました。また、来年度の本校リーダーとして頑張ろうと決意した生徒たちだけあって、立候補した生徒たちは的確な現状の分析ができていました。

都留二中の誇れるところ

○先輩から受け継いだ、挨拶・合唱・応援の3つの伝統が素晴らしい。

早急に改善していくべき課題

- 挨拶・掃除・授業への取組・自主学习など、当たり前なのが当たり前できていない。
- 挨拶を都留二中の伝統呼ぶには、まだ改善が必要である。

これらの点は、充実した学校生活を送っていくために、とても大切な事であり、今後、継続発展させたり、早急に改善したりしていかなければならないことです。良い学校とは価値観を共有する全校生徒が、意識を合わせて目標に向かい、切磋琢磨しながらよりよい学校づくりを通して、自らの成長を促す場であると思います。人は人との関わりで磨かれ成長します。今、都留二中には仲間を成長させてくれる「本気のリーダー」が必要なのです。本気のリーダーこそが全校を元気にしてくれるはず。新執行部の最初の仕事は、「三年生を送る会」です。取り組みに当たっては人と人とのつながりを大切に、気持ちで人を動かしてほしいと思います。

生徒会役員選挙の意義は、学校文化の継承です。選挙で引き継ぎが終わるのではなく、選挙から3年生が卒業するまでに、長田会長を中心に今まで培ってきたすばらしい本校の学校文化を引き継ぎ、これからの学校生活に活かしていくことが大切になります。都留第二中学校が100年後も、すばらしい学校であり続けるためには学校文化を学校全体で継承している学校にしなければなりません。そのためには、3年生全員が文化を託し、在校生全員が文化を受け継ぐ態度を養っていくことが大切です。これからもすばらしい学校文化を創りあげられる学校を継承していきましょう **～3年生を感動させられる「3送会」を創りあげよう！～**

平成30年度 生徒会役員選挙 立会演説会

H30年度 生徒会役員氏名		
役職	学年	氏名
会長	2年	清水 惟加
副会長	2年	小俣 太陽
副会長	2年	小林 凜
副会長	1年	滝口 にこ
事務局員	2年	市川 貴大
事務局員	2年	上野 太耀
事務局員	2年	野澤 貫太
事務局員	2年	佐藤 優奈
事務局員	2年	大野 菜々美
事務局員	1年	相川 洋輝
事務局員	1年	現在選考中
事務局員	1年	現在選考中



↑会長当選の
清水惟加さん
と応援の
葉津さんと望美さん



↑立会演説会の様子



↑投票の受付をする2年生

1・2年生に本の読み聞かせを行いました。

11月16日(木)・24日(金)に1・2年生が、市内のボランティア団体「ひびきの会」「ペレポロの会」の皆さんに来校していただき、本の読み聞かせを行いました。



中学生に読み聞かせ?と思われるかも知れませんが、生徒たちは、とても忙しい中学校の三年間を送っています。やれ部活、やれ勉強と、忙しくストレスの多い生活に追われている生徒たちだからこそ「読み聞かせ」だと考えます。もうすぐ大人になる「心」を育てるにはこの時期なのです。「思いやり、優しさ、感謝」、こんな心を育てて欲しいと思います。そしてもう一つは「命の大切さ」です。本を通して「あなたはこの地球に生まれた、大切なかけがいのない存在」であるということを知ってほしいと願っています。



「ひびきの会」「ペレポロの会」の皆さん、貴重で有意義な時間をありがとうございました。